



日本福音ルーテル教会 北海道特別教区報

第44期第3号

2024年12月6日
発行者:小泉基



小さなディアコニアの価値

小泉 基

ひとというのは、いつでも未熟な存在なのだと思います。それでも、その未熟なひとが、神さまに用いられて、それぞれに与えられた異なった役割を果たすのです。どこまでいっても、成熟に到達することはないとしても、それでもわたしたちは、神さまに用いられて、成熟へとむかう道を、あゆみつつ歩いていくのです。

教区では昨年、ディアコニアをテーマにあゆんでいます。今年の修養会において下さった小副川幸孝先生(九州学院院長)は、ディアコニアの「コニア=コノス」とは「塵や灰」であり、「ディア」とは「～を通して・～によって」という意味であると教えてくださいました。わたしたちは、「塵や灰をくぐり抜けること」によって、つまり「他者のために自ら苦勞を負う」ことによって、成熟した人間への道を歩んでいく。そしてそれは、イエスさまが示されたキリストの姿とそのわざであり、神の平和と愛が満ち溢れる「神の国」のための、不可欠な要素であるのだということです。

わたしたちはディアコニアの働き=他者のために苦勞を負う働きによって、神の国を早めていく役割を負っているということです。しかしそれは、ディアコニアがわたしたちの救いの条件である、ということの意味しません。小副川先生のお話しは、ディアコニアは信仰の必然的帰結であって、ディアコニア自体が目的ではないのだ、という点にすすんでいきます。ディアコニアは、人の善意

だけにもとづくボランティアとは違って、神さまのわざであるので、その結果が重んじられたり、人間的な基準によって評価されたりするのではない。ですから、ディアコニアとは、見栄えや数量や社会的価値とは違った、神さまの基準で判断されることがらだということです。社会的に大きな働きに価値があるのと同様、人の目にはとまらないような、わたしたちの日常のなかにある小さな働きにも、神さまの働きとしての同じ価値がある。ルターも「わざそのものが良いか悪いかではなく、信仰から出るわざが”善きわざ”である」、と語っているそうです。ですから、わたしたちは、もう「あれができない」「これもできない」、と嘆く必要はありません。神さまの働きを信頼し、出来ないことは神さまに委ね、わたしに出来ることを担っていく生き方。たとえもう何も出来ないとすら思っても、信仰から出る祈りによって世界を支えていく生き方。その存在を神さまは肯定し、わたしたちを成熟へと導いて下さるのです。とても示唆に満ちた小副川先生の講演をいただくことができた、恵み深い修養会を共にすることが出来ました。みなさんのご協力に深く感謝を致します。

挨拶する
小泉教区長



参加者の声

「修養会感想」

私は久々の修養会への参加でしたが、函館教会からは初めて参加される方が多かったです。

ここ数年は恵み野教会とは関わりを持つようになりましたが、函館教会は教区の中で距離的に遠いこともあり、なかなか他教会と交わることがありませんでした。しかし今回修養会にて、他教会員と交流を持ち、道内に同じ教派の兄弟姉妹がいることを実感出来たことは、とても大きかったと思います。神様の素敵な恵みに感謝です。(函館:岩崎明子)

「修養会感想」

今回の修養会は私自身、本当に久しぶりの参加となりました。教区役員会で数名の方々と顔を合わせることがありますが、こうしてたくさんの教会員の方々と会い、久しぶりにお会いする方。初めてお会いする方。全員が1つの家族として集う事が出来たことに感謝です。

交流会では先輩方の皆さんに元気を頂くと共に自分の信仰の至らなさを教えられました。

今回のテーマにもあるように教区の複数の教会が集まり情報交換や相談をする。それも今後の教区を支える助け合いの一つではないかと考えます。また、私事ですが、このディアコニアの精神が教会内だけでなく自分の職場の障がい者福祉の現場でどう活かしていけるか、隣人としてどうすれば良いか、一つの指針として得るものが多かった修養会だったと思います。

函館からも多くの参加者があった事、そして修養会を作り上げて下さった札幌の皆さんに感謝したいと思います。(函館:岡村隆行)

「修養会感想」

修養会の参加はひさしぶりでした。道内の各教会より集まった中に、久しぶりにお会いした方も何人かいらして、なつかしく、嬉しいことでした。

グループ別の話し合いの時、大いに盛り上がりました。奏楽者の方が何人かいらして(ベテランの人たちです)、主日に向かって練習し、さー大丈夫と本番に臨むけど「必ずどこかで間違うのよ!」と…。

ベテランさえそーなんだと、ヨチヨチ歩きの私としては安心と励ましを覚えました。集会は若い人が少なく、お年を召した方が多かったように思います。若者たちがぜひぜひ教会に足を運んで欲しいと思ったことです。

集会を終え、駅まで来た道を戻ったつもりで迷い、ついにはヘトヘト。でも、心暖まる時を過ごさせてもらいました。

講師の先生、準備してくれたスタッフの皆さんに感謝です。(恵み野:石垣幸子)



受付準備風景



「修養会感想」

「仕える」ことに関してM. ルターは、倫理的目標ではなく、「そこにいるから」というだけの存在論的な目標転換を説いたとの事です、ガザ地区や小ロシアで現在実際に起こっていることが報道を通して「すぐそこ」に見えているのに私たちは何もできずに、また、当事地域の人々が「世界から見捨てられた」と嘆いている実情を目の当たりにしながらも、私たちは無関心の罪に陥ってしまっているように思えてなりません。また、カファルナウムに於けるペテロの姑への奇跡の直後の「もてなしを必要としている人」から「もてなす人」への方向転換の記述は、不思議なスピード感を伴う感動があるのですが、それに比べて私たちの行動はあまりにも遅くて鈍いものです。

小副川先生は、信仰による善きわざとは、神が私たちを用いてなされる神ご自身のみわざであると教えられたのですが、私たちをすぐに用いてくださらないのは、神ご自身が遅いからなののでしょうか。実際、何事にも性急に反応しがちな私の肉的気性からは、もどかしさを感じずにはいられないのですが、ここで「待つ姿勢」に耐える事こそが、「塵や灰を潜る事」の一つなののでしょうか。あるいは、「蛇の如く用心深くあれ」と、神様が私たちを留めおき守ってくださっているのでしょうか。

では、今すぐにできることとは、金銭的援助くらいなのかと悲観する私たちではありますが、小副川先生の、肉体が衰えても最後には、他の人々のための「祈り」と言う最強のディアコニアが残されているという論しを思い起こすならば、映像を通して「すぐそこ」に聞こえてくる彼らの嘆きに呼応する「祈り」によって仕えることができるかもしれないと考えるように促

されて、自分の「存在」のベクトルが大きく方向転換させられた思いでした。(札幌北:松山敏)



開会礼拝で説教する小副川幸孝牧師

「秋の修養会に参加して」

前回の帯広の修養会に続いて2度目の参加でしたが、まだまだ初めてお会いする方が多くグループに分かれての懇親会は不安もありましたが、教会ごとの賛美や紹介のスライドを見たり「サイコロトーク」や「歌のお姉さん」の出演で楽しく過ごすことができました。

小副川先生の主題講演を通して「ディアコニアー助けあい」は「しなくてはならない倫理的目標」ではなく「神の恵みと愛に基づく信仰によって導かれたもの」であること、「内的集中—今のわたしに語りかけられる神の言葉を聞くこと—」が大切であること、内的集中のない外的奉仕は自己中心になっていくことを教えられました。礼拝説教からは「ディアコニアー助けあい」が次の「ディアコニアー助けあい」に繋がっていった体験のお話を聞くことができ感謝な二日間でした。

(札幌北:藤田かをり)



参加者の声

「修養会に参加して」

他県と比べて圧倒的に距離感がある私たちの北海道教区。

北海道と一括りにされても厳密には気候も特産物もそれぞれ違うのです。

たださえ、そのような距離感があるにもかかわらず、新型コロナウイルス感染症の蔓延というこれまで私たちが予想することもなかった事態に道内の教会間の距離感が更に広がってしまいました。そのような中でオンラインという形でコミュニケーションを図るという方法も現代のIT化社会において可能とはなりましたが、「お元気でしたか？」などと言葉を言うためにこのようなツールを使うことはないでしょう。

それが今回、5年ぶりに集まることにより、このたった一言の言葉を交わすだけで、一瞬にして地図上の距離感が縮まり、出席者全員で賛美歌を歌い、祈ることで北海道内の一体感を得ることができました。

季節感がまるで違う熊本よりお越しいただいた小副川先生の講演に気負うことなくキリスト者として生きていけばよいのかなと背中を押された気がしました。

残念ながら、この集まれなかった期間で召天された方や今回の機会に足を運ぶことが出来なかった方々を思いつつ、恵みの多い二日間でした。

修養会のためにご準備された方々に改めて感謝申し上げます。(札幌:近藤雅子)



「秋の修養会に参加して」

開会礼拝で小副川先生が話してくださったボス猿のことが忘れられません。淡路島モンキーセンターのマッキー(猿)が、手足のない子猿を抱っこして世話をする、他の猿に餌を譲る…その行動が群れの信頼を得て、ボス猿になったということです。講演会で伺った特別な能力や行為ではなく、在るだけでみんなに幸福をもたらす、ディアコニアのわかりやすいお話しだと思いました。

そんなマッキーをボスに選んだ群れの猿たちも素晴らしいと思うのです。力の強さではなく、弱いものを見捨てない猿をリーダーにすることで、群れの秩序と平和が保たれる道を選ぶとは、素敵な心を持っているなと感じます。

我が身を振り返ると、何が求められているのかを見失い、日々の生活で嘆きを呟くばかりで、神様から“わたしに”語りかけられていることを少しも聞いていない。祈りのうちに聞き、そこから真っ直ぐに送り出されて、社会や家庭に在る、そのことが大事だと新たに思いました。マッキーのように、神様に与えられた平和を誰とでも分かち合えたらよいのですが、まずは難しく考えずに、笑顔を増やそう！そう思います。(札幌:松島直子)



参加者の声

「バトンタッチ」

体力もなくなり理解する力もなくなり、それでもみんなに会いたいと、半日だけの参加でした。ただただうれしく、ただただなつかしく、おもわず「うれしいね・・・」とつぶやいた私に「うれしいですね」と答える声が聞こえた（・・・気がします）。

こんな会には絶対に居るはずの友が二人も去年天に召されました。その友の声だったと思います。「あと少し時間をくださいって、神さまにおねがいしているんだよ。欲張りだよね。」そして「これから腹水を抜きます」のメールを最後に友は行ってしまいました。

何年かぶりで教区の集まりが出来たことをその友に報告して顔を上げた時、今回の集まりで初めてお会いする方と目があいました。ああ、教会は生きていたと思いました。バトンを託する若い方とお会いした思いです。すべてがカイロス-神の時-にある事を実感しました。（新札幌：おおわまり86歳）

「修養会に参加して」

私が一番印象に残っている話は、淡路島のモンキーセンターのボスザル「マッキー」「アサツユ」の話でした。彼はボスザルとして15年間群れのリーダーとして、他の猿達から受け入れられていた姿は群れの中での「仕える者」としての姿でした。そしてその姿勢は次の「アサツユ」に引き継がれていったという話でした。人間として見習うべきだと思いました。

「ディアコニア」は「神様のみわざ」ということで、私を通して働く神様のわざ。決して人の働きではなく神さまのわざ。これが隣人愛へ至るというメッセージでした。

小副川先生も年齢を重ねられ、40数年ぶりの札幌ということで、大変懐かしかったですが、聴力に不自由されているとのことで、これからのお働きの上に神様の豊かな恵みと祝福を祈りたいと思います。ありがとうございました。（新札幌：山本雅啓）

親睦夕食会の様子



参加者の声

「修養会に参加して」

月といっしょにしばらく並行。

山は緑を失い、ところどころ黄色とオレンジ色。畑には早くも収穫物は見あたらない。久しぶりの列車旅。

「ディアコニア」について詳しくわかりとても良かったです。

中味をよく知りませんでした。16-17歳の頃から変わらざる(物事)を捜し求めて来ました。本は好きで、聖書(新約)を読んでいた。

ある時、娯楽室で読んでいたら「教会を訪ねてみたら？」と言う人がいて列車で行ってみました。

讃美歌がとても好きになりました。雰囲気がおだやかで、静かで落ち着く感じです。交わりと学びの中で生きる意味を知ったように思います。

暑かった夏から一気に秋模様。何という素晴らしいことばでしょう。「悲しまないでほしい。この肉体の終わりは新しいページの始まりなのだから・・・」(ボンハッフアー)。

「終着駅は帯広です」との車内アナウンス。そのひとつ手前の芽室にて下車。私にとっての終着駅はむろん天国。顔をぐっと挙げてこの残された時を生きる。(帯広:渡辺せい子)

「秋の修養会に参加して」

修養会に参加して、説教やお話を通して「ディアコニア＝信仰に基づく愛の業として、他人の事を祈り、仕える者となちなさい」ということを学びました。

その中でおもしろかった話を・・・それは淡路島のモンキーセンターのボス猿の話。サルの群れのボスとなる為には、力の戦いでその座に付き、餌を食べる時もボス猿が食べ終わってから(他のサルが食べるという・・・)。ところが7代目のボス猿マッキーは自分より先にまず若い猿達に食べさせ、その後に自分が・・・そして8代目のボスとなったアサツユも先代のマッキーの姿を見て育ち自分は最後の食事。ずっとそれは続いていて、淡路島のモンキーセンターではエサ取り争いがないそうです。それに引き換え人間社会はどうでしょう？教えられますね。(帯広:米山久子)



親睦夕食会には歌のお姉さんも登場！



ギャラリー



札幌教会



恵み野教会with函館教会



親睦夕食会 各教会紹介とともに讃美のひと時(↑帯広教会)

講演会では、
皆さん静かに聞き入っていました



ギャラリー



講演を受けて“わかちあい”の後、記念撮影&昼食を共にして散会



教勢動向 (2024年8月－11月)

函館教会 受洗: 掛端あいり(9/1)
 札幌教会 受洗: 野村陽治(10/26)
 転入: 菱山朝子(NRK北見9/8)、清水郁美(江別三番通福音キリスト教会10/18)
 転出: 井上聡(盛岡聖公会11/10)